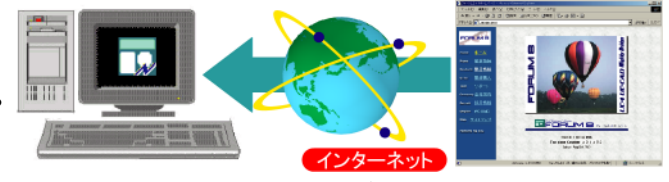


インターネット自動アップデートツール NetUPDATE

はじめに:

フォーラムエイトは、1999年11月より、インターネット自動アップデートツールNetUPDATEの無償提供を開始しています。ローカルコンピュータにインストールされている製品をインターネットでいつでも最新バージョンへ自動更新できる便利なツールです。インターネットを利用したアップデートは、Windowsの更新通知やウイルスチェックプログラムのパターン更新などでよく知られています。これらと同様、UC-win/UC-1/UC-CADの全てのWindows版製品のアップデートが可能です。また、当社全製品を収録した統合CD-ROMによる一括更新も行えます。加えて、更新の重要度情報、バージョン更新履歴、最新の製品情報などの情報も表示し、統合的な製品利用環境を充実させています。



I. NetUPDATEの特長

設計ソフトの信頼性を高める自動更新機能

製品の信頼性を確保するためには、最新の製品を常に利用することが必須です。NetUPDATEは、ローカルコンピュータにインストールされているフォーラムエイト製品をインターネットのフォーラムエイトアップデートサーバにアクセスし、最新製品バージョンに自動更新するプログラムです。 1

製品の自動検索により 新旧バージョンを表示

検索ドライブの指定だけで、インストールされているフォーラムエイト製品を自動検索します。最新バージョンは、インターネットでフォーラムエイトから最新バージョン情報を取得しますので、新旧の最新バージョンがすぐわかります。 2

製品毎に一目でわかる重要度情報、バージョン更新情報

最新バージョンばかりでなく、製品の更新重要度がわかります。A(重要度、高、緊急性の高い重要更新) B(重要度、中、機能的な強化、限定的なエラーなど一般的な更新) C(重要度、低、軽微な修正などの重要度が低い更新) 無(更新不要)の分類で表示されます。 2

高い信頼性と品質を誇る IIの FTPサーバでダウンロード

インターネットでのダウンロードは、回線の状態、サーバーの性能など速度と品質が心配です。SLA品質保証制度を開始した国内最高品質を誇るIIのFTPサーバをアップデートサーバとして利用し、アップデート作業に、より快適な環境を提供しています。 3

ローカルモードで統合CD-ROMからの一括自動更新に対応

フォーラムエイト製品を収録した統合CD-ROMでの製品更新作業も飛躍的に効率化します。アップデート元をローカルドライブに設定し、統合CD-ROMをセットするだけで新旧バージョンを表示し、差分ファイルによる自動更新を行います。 4

定時予約による自動更新、メモリ常駐によるリアルタイム更新に対応

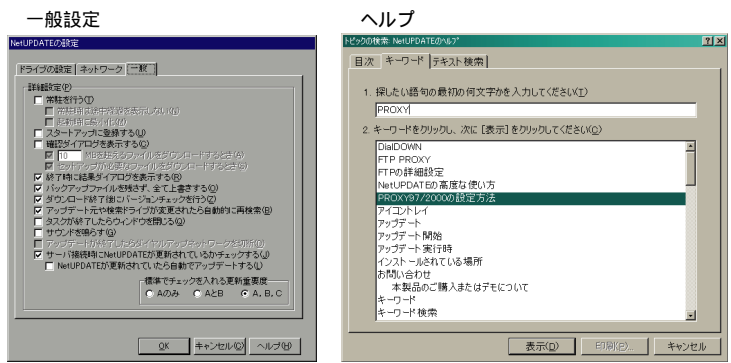
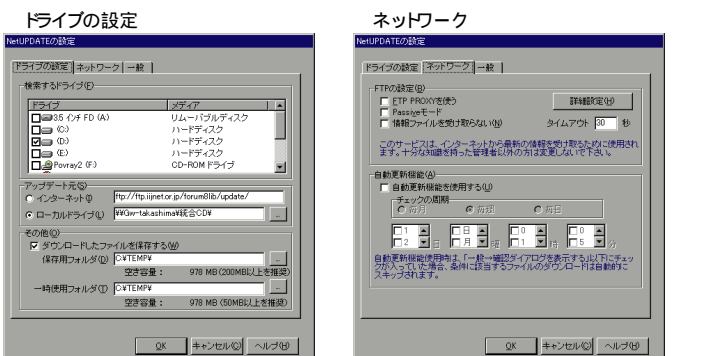
手動更新ばかりではなく、メモリに常駐し、検索チェックの周期を毎週、毎日、時間などを指定することで、自動更新を実行します。PCの利用が少ない夜間などに自動更新することができます。 5

- 1製品の差分ファイルで更新できないプログラムは、製品のダウンロードを実行します。データベース構造を使用しているUC-Win/UC-1などは、製品ダウンロードを行います。製品ダウンロードを行う場合は、手動でsetupする必要があります。
- 2最新のバージョンまでに、複数の改訂バージョンがリリースされている場合は、最も高い重要度を表示します。
- 3回線品質は、利用しているプロバイダ側の回線品質も遅延の要因になります。また、環境設定により、アップデート元をプロキシサーバを使用することもできます。
- 4統合CD-ROM'99 No.9 (vol13)からの対応となります。それ以前のCDでは、自動インストール機能はありません。本製品は、クライアント(ローカルコンピュータ)上で使用している製品を更新するプログラムです。サーバからのクライアント更新は、できません。本製品を実行することでローカルコンピュータにある情報をフォーラムエイトに送信することはありません。フォーラムエイトからバージョン情報データベース及び製品差分などをダウンロードし、ローカルコンピュータ上で処理を行います。

II. NetUPDATEの環境設定

製品を検索するドライブの変更は、設定「ドライブの設定」で変更してください。統合CD-ROMから、製品の更新を行なう場合は、設定「ドライブの設定」でアップデート元をCDドライブに変更してください。・「チェックの周期」で時間予約し、自動更新機能を使用する場合、更新対象製品は、手動でチェックされた製品をアップデートしますが、手動で再設定しない限り、2回目以降、「一般」標準でチェックを入れる更新重要度を自動更新します。・NetUPDATEプログラムの自動更新を行う場合、設定「一般」で、「NetUPDATE更新時、自動アップデートを行う(L)」をチェックする。再起動時にもNetUPDATEを常駐させる場合、設定「一般」で、「スタートアップに登録する」をチェックする。

差分ファイルで更新できない製品は、ダウンロード後、旧製品のアンインストールとダウンロードファイルのsetup実行する必要があります。自動検索では、製品の実行ファイルとバージョンを検索しています。正常にインストールされていない場合でも検索されることがありますので、ご注意ください。



III. NetUPDATEの操作手順

- 自動検索により、インストールされている製品がリストアップされます。製品名マークの説明
- ...検索対象プログラム
更新の必要の無い製品はチェックが入りません。この製品のアップデートは行われません。
 - ...アップデート対象外プログラム
更新したくない製品は、灰色にすることで、手動で変更しない限りアップデートを行わないようにすることが出来ます。
 - ⊠...アップデート不可プログラム
何らかの理由で更新できない製品はこのマークになります。理由は製品によって異なりますので、詳しくは製品をクリックして内容をお確かめください。また、このマークは変更出来ません。
 - ☑...アップデート実行対象プログラム
更新する必要がある製品はデフォルトでこのようにチェックが入ります。製品のアップデートが行われます。
- 製品をクリックするとバージョン更新情報を表示します。更新の可能な製品は、チェックボックスがチェックされています。重要度とは、更新の重要度 [A(高)~C(低)及び無] を示しています。重要度が低い、「ファイルのサイズが大きい」などにより、アップデートしない製品は、チェックを外して下さい。

製品のチェックボックスをチェックし、アップデート開始ボタンを押すと自動更新を開始します。アップデートの実行結果は、ダウンロードログファイルに記録されています。ダウンロードログファイルの表示ボタンで確認できます。自動更新終了後、製品が更新されているかを確認するため、ドライブの再検索を自動的に行います。

